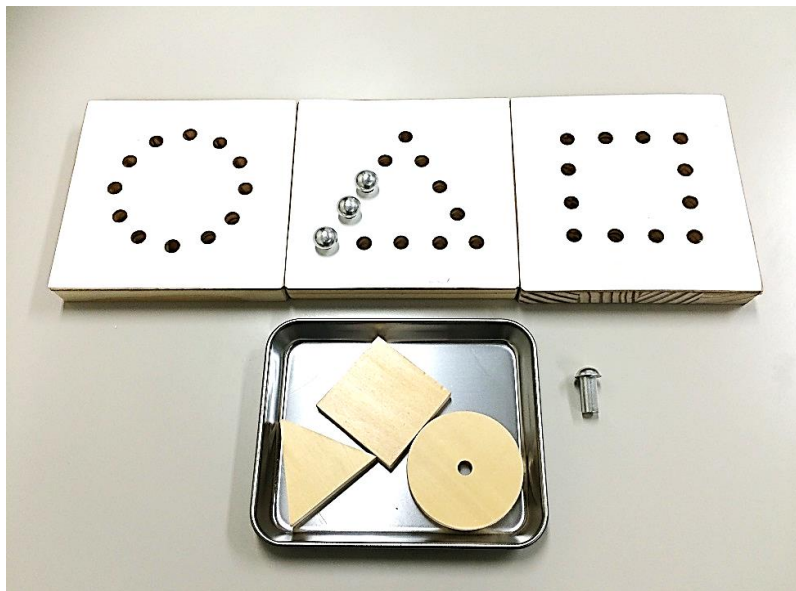


基本図形のリベット教材



【ねらい】

- ①操作の先を目で捉え、よく見て入れる。
- ② 順に入れ、リベットをたどって形に気付く。
- ③物のやりとりを行なうことにより、相互的な人間関係を形成する。

【方 法】

- ①Oの形から行う。さしてある状態を見せ、一緒にリベットを抜いてお皿に入れる。
- ②1つ1つ「はい」といって手渡しする。どのように入れるか観察する。
- ③連続的に入れようとしたら、時々手を止めて、視線を合わせたり、「ください」という要求表現（サイン）を促したりする。
- ④全部の穴に入れたら、リベットの頭を一緒に指でたどり、形のイメージを作る。
- ⑤「まる」といってOの形を渡し、リベットで作った形の内側に入れるよう促

【発展・応用】

- ①他の形でも同様に行なう。
- ②1個の土台板を見本としてリベットを入れたまま並べ、Oや△など複数の形板を渡して、見本と同じ形を選んで入れるように促す。
- ③△は、逆方向（▽）でもやってみる。

【留意点】

- ①リベットを順に入れられなくても、そのままの状態を観察し、記録する。
- ②さす直前に次の穴を指差し、間違えないようにすることも工夫の1つ。
- ③連続的にリベットを手渡していくと、次を予測する気持ちが生まれる。このときが(自分と異なる心を持つ)人の存在を意識させるチャンスである。

【評価の視点】

- ①目が合わなくてもクレーンで要求することができたか。⇒指さしなどの要求手段の獲得につながる。
- ②リベットで作った形の内側に入れる板は、最初はぴったり入るもの、慣れてきたら、1/2くらいのおおきさで入れても隙間ができるものにする
⇒より想像力を必要とする⇒見ただけで形がわかることにつながる。